



左からビルドの門脇取締役、丹治建築部長、木幡労働基準部長

宮城労働局

無災害表彰

ビルドJVが栄誉

宮城労働局は2日、建設事業無災害表彰の伝達式を同局の労働基準部長室で開いた。受賞者は、ビルド(仙台市太白区)・アフエクシヨシウォーク(大阪府大阪市)復旧・復興JV。巨理町での災害公営住宅新築工

同局の木幡繁嗣労働基準部長から表彰状が手渡された。受賞工事名は「仮称・巨理町下茨田地区災害公営住宅新築工事その1」。工事で

丹治建築部長は災害ゼロのポイントを「近隣対策に一番力を入れた」と話した。現場が通学路のため工事車両の乗り入れに時間規制を設けたほか、仮囲いに巨理町のキャラクターや季節折々の画像を貼って現場の

建築部長は「このような取り組みもあって結果的に、工事に対する住民の理解・協力を得られた」と話した。このほか安全確保のために、協力企業と日々の打ち合わせはもろろんのこと、各工程で発生する危険作業についても協議を重ねた。敷地内では別工事として集合住宅2棟の建設も進められており、安全施工のため

住民の理解得て円滑施工

事で近隣住民の理解を得て円滑に施工し、無事故・無災害を達成した。JVを代表して式に出席したビルドは、初の栄誉に輝いた。伝達式には、ビルドの門脇後夫取締役開発営業部長と丹治勝建築部長が出席し、

工期は26年1月27日、27年2月27日。期間中の平均労働者数は1日当たり26・2人。期間中の延べ労働時間数は6万5576時間だった。請負金額は約6億8000万円、発注者は宮城県。

イメージアップを図った。仮囲いの画像は、子どもたちが楽しみに現場の前を通ったり、近隣住民から会社へ感謝の手紙が届いたりするほど好評で、結果的に工事現場であることの注意喚起にもつながった。丹治

門脇取締役は災害公営住宅の施工について「工事中は、入居を待つ町民の期待を強く感じていた。当社としても復興事業に携わられてよかった」と話した。